

子宮頸がん検診に関する Q&A

ジェイアールグループ健康保険組合

令和 6 年 9 月

Q1：細胞診の特徴は何ですか。

A1：子宮頸部や膣部の表面の粘膜を専用のブラシなどでこすって細胞を採取し、異常な細胞がないかを調べる検査です。

検査は短時間で済み、大きなリスクや苦痛はほとんどありません。細胞を採取した時に出血する場合がありますので、生理用ナプキンを用意しておくで安心です。月経中の検診は、正しい検査が難しいので避けましょう。

国が推奨する対象年齢は 20 歳以上、受診間隔は 2 年に 1 回です。

Q2：HPV 検査の特徴は何ですか。

A2：ヒトパピローマウイルス（以下、HPV）検査は、子宮頸部から細胞を採取し、HPV に感染しているかどうかを調べる検査です。

子宮頸がんの原因は、主に性交渉による HPV 感染です。HPV はごくありふれたウイルスで、多くの女性が感染するといわれます。感染しても多くの場合は症状がないうちに、HPV が自然に排除されると考えられています。しかし、HPV が排除されずに感染が長期間継続すると、一部に子宮頸がんが発生することがあります。

国が推奨する対象年齢は 30 歳以上、受診間隔は 5 年に 1 回です。

■参考・引用

- ・厚生労働省ホームページ「がん検診」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000059490.html>

- ・国立研究開発法人国立がん研修センター「がん検診について」

https://ganjoho.jp/public/pre_scr/screening/about_scr01.html